

ポイント

(1)で出てきた条件節が、(2)以下にも影響を及ぼしている。(2)以下を和訳する際に、(1)で出てきた条件節を補ってやらないと上手く訳せないのがポイント。(6)は倒置と and が結ぶものに注意が必要。なぜ倒置が起こっているのかを考えること。

見取図

(1)Try to consider what would happen if a person were left totally unchanged by his experiences and activities.

<文>

You	(try to) consider	that+文
S	V	O

what	(would) happen
S	V

if	a person	were	left totally unchanged	by his	{ experiences and activities
	A	=	B		

* what **would** happen や if a person **were** ~ は仮定法。「実際は違うが、もしそうだと仮定すると」と言っている。

* leave は「ままにしておく→何を→どの様に」の第5文型。ここではその受け身。

【全訳例】もし人が自分の経験や行動によってまったく変化しないままにいるならば、どうなるかを考えてみると良い。

(2)It is almost impossible to imagine what he would be like.

It	is	almost impossible
A	=	B

to imagine what he would be like

* what A is like で「Aさんがどんな人かということ」。otherwise 同様に、ここでも条件節を補ってやって「もし人が経験や行動によってまったく変化しないのであれば」と考える。

【全訳例】もし経験や行動によって人がまったく変化しないのであれば、その人がどうなるかを想像するのはほぼ不可能である。

(3)Every situation he encountered would be forever strange, unfamiliar, unpredictable.

Every situation	(would) be	forever strange, unfamiliar, unpredictable
A	=	B

[that] he encountered

* strange を「奇妙な」とか「変わった」とやると、文意が通らなくなる。strange, unfamiliar, unpredictable のコンマ(,)を同格と考えて、3つともほぼ同じ意味の形容詞の羅列と考えると分かりやすい。stranger が「見知らぬ人・よそ者」だから、strange には「見知らぬ」とか「真新しい」の意味がある。

【全訳例】もしそうなら、その人が出会うあらゆる状況は、永久に真新しく、馴染みのない、予測不能なものであるはずだ。

(4)He would commit the same errors over and over again with no chance of their ever being removed.

He	(would) commit	the same errors	over and over again
S	V	O	with no chance of their ever being removed

* with no chance of A で「Aする可能性がない状況で」。chance to と chance ofの違いに注意！ちなみに、これは A of B だから、of は同格。

chance to do = ~する機会

chance of doing = ~する可能性

* remove the same errors で「同じ誤りを取り除く・同じ誤りを犯さないようにする」。それが受け身になり動名詞化したのが their being removed. 当然 their は the same errors. だから「誤りを犯さないようになる可能性などぜったいにない状況で」と訳出する。

* ever = at any time で「いつでも・どんなときでも」。ここでは no ~ ever だから never と考える。

the same errors are never removed を動名詞化・代名詞化すると・・・

→ their never being removed

* commit は「良からぬ事をやる」の意味。

commit an error = 誤りを犯す・

commit a crime = 犯罪を犯す

commit a suicide = 自殺する

【全訳例】もしそうなら、同じ誤りを犯さないようになる可能性など皆無で、それ(同じ誤り)を何度も繰り返し犯すことになるだろう。

(5)He would develop no new accomplishments.

He	(would) develop	no new accomplishments
S	V	O

* develop accomplishments = 「偉業を達成する」「成果を上げる」「達成感を得る」。ここから分かる様に、develop の訳語は無限に当てられる。

develop a cancer = ガンを患う

develop a colony = 植民地を開発する

develop a policy = 方針を立てる

develop a repertoire = レパートリーを広げる

【全訳例】もしそうなら、何か新しい成果を上げるなど皆無なのである。

(6) Language would be impossible, so would thinking, self-awareness, anticipation of the future, and all art and science.

Language	(would) be	impossible
A	=	B
[and]		
thinking self-awareness anticipation of the future	(would) be	so =impossible
all art and science	=	B

* so+助動詞+S = so+V+S = 倒置。なぜ倒置が起こったかということ、頭でっかちのE T型の英文だから。

* art and science = 人文科学→教養

* Language would be impossible, and so would thinking, ~と、andがあった方が分かりやすい。andやbutを削ってしまうと知的な雰囲気が出てくる。受験生にとってみれば、やっかいなことだ。

【全訳例】もしそうなら、言葉を話すこともできないし、さらにモノを考えたり、自分を認識したり、未来を予想したり、教養を身につけることも出来ないのだ。

(7) He would be deprived of possibly everything that makes him recognizable as a human being.

He	(would) be deprived of	possibly everything
S	V	O

that makes him recognizable as a human being

◎ deprive 物 of 人で「人から物を奪う」。その受身形が、人 is deprived of 物となり「人は物をなくす」。

【全訳例】もしそうなら、人を人として認識させるおそらく全てをなくしてしまうかもしれないのだ。